

耕平さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。春本番が待ち遠しい季節になりましたが、まだまだ朝晩は冷え込みます。くれぐれもご自愛ください。

先月末のテレビ番組で、石破茂農水大臣が「過去十五年間、農業産出額が減少し続け、農業所得は半分になつた。農政に間違いがあつたと言わざるを得ない」と発言。石破大臣は正論を述べました。

戦後、日本は百五十万ヘクタールの農地を造成する一方、二百五十万ヘクタールの農地を減反、転用、耕作放棄で失つてきました。多額の農業予算（税金）を農業そのものではなく農業土木工事に投入し、食糧自給率は低下。二重の失敗を犯してきたと言えます。

今や、穀物は「食料」から「資源」に転化しました。食料の大消費国になつた中国とインドの人口は合計二十四億人。消費量の増加は数十年続きます。今後、食料は慢性的な供給不足と価格高騰に直面するでしょう。

そうした中、毎年三千万トンの穀物を輸入する一方で「資源」である米を減産し続けています。減反によつて

水田面積約二百五十万ヘクタールの四割（1/4）百万ヘクタールが消失。食料自給率（カロリーベース）は四割を下回りました。「資源」を減産すると補助金がつく減反政策の見直しは不可避です。

今国会に農地の貸借を原則自由化する農地法改正案が提出されました。農地の「所有から利用」への転換を図り、

株式会社や農協による借用も解禁。これによって増産と自給率向上を目指すそうです。もつとも、その一方で減反を続けるようでは支離滅裂です。

新しい動きを活用した工夫

も必要です。例えば飼料米。穀物価格高騰に伴う飼料コスト高に苦しむ畜産農家が注目しています。休耕地で飼料米を生産すれば、米作農家と畜産農家の双方が助かります。

大臣の発言がグラグラしています。減反維持派の主張に押されています。政治家の中でも、賛成もあれば反対もあります。頑張ってもらいたいものです。

麻生内閣の支持率低迷や小沢さんを巡る問題で政治は迷っています。政治家のひとりとして、皆さんにご心配をかけてしてお詫び申し上げます。しかし、政策課題は明確です。政局に右往左往することなく、政策課題の解決に向けて、引き続き全

日本の農業を循環型に転換し、低コスト化を実現する試みです。

日本の食文化には様々な

「先人の知恵」があります。

例えば「かき揚げ」。

永平寺のお坊さんが食材をムダにし

ないように野菜の切れ端を集めて揚げたのが始まりと言わ

れています。まさしくエコ

ファードです。



かわら版執筆者 大塚耕平

1959年生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。その後、旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。2001年から参議院議員。現在2期目。

京都に行こう「バスツアー」

大塚耕平と法輪寺副住職藤本高全氏の同級生コンビがジョイント!
とっても楽しい、大塚耕平事務所「京都日帰り観光バスツアー」

日 程：平成21年5月16日(土) 日帰り

旅 程：京都嵐山 法輪寺で藤本副住職の説法～
嵐山散策～錦市場お買い物～寺町/京極散策

参加費：お一人さま 8,000円（予定）

定 員：40名

（定員になり次第、締切とさせていただきます）

主催：Z1世紀日本政策フォーラム 取扱旅行社（株）日本旅行 名古屋教育支店

お問い合わせ：

052(757)1955 大塚耕平事務所（浅井）